

科目	作業療法評価学	担当	林 浩之	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

**【授業目標・到達目標】**

本科目では、評価の意義や目的、流れを学習し、主に身体障害の作業療法で用いられる検査・測定の具体的な実施方法を学習する。到達目標として受講者は、①一般的な評価の流れを理解し説明ができるようになる、②検査・測定に必要な知識を理解し、実施できるようになる。

**【履修注意】**

- ・被験者への身体的不利益を防止するために身だしなみを整えて授業に臨むこと(爪を切る、長い髪は束ねるなど)。
  - ・実技を取り入れながらの講義形態になるので積極的な姿勢で臨むこと。
  - ・作業療法実践において非常に重要な科目であるため毎回の出席を原則とする。
- なお、予定を変更することがある。

**【評価方法】**

期末試験(実技試験)8割、小テスト2割を総合して評価する。

**【試験について】**

期末試験は実技試験を行う。小テストは筆記試験とする。

再試験対象者の条件： 期末試験と小テストの総合評価が6割未満の者

**【予習・復習】**

解剖学、生理学、運動学を含めた予習および復習が必須である。

**【教科書】**

書籍名：作業療法評価学<標準作業療法学 専門分野> 著者：岩崎テル子ら 出版社：医学書院  
 書籍名：「ベットサイドの神経の診かた」 著者：田崎義昭・斉藤佳雄 出版社：南山堂

**【参考書】**

**【その他の注意事項】**

**【授業計画・内容】**

回数	項目	内容
1	評価総論	評価の意義、妥当性と信頼性、面接と観察
2	生理機能検査	血圧、脈拍、呼吸
3	形態測定①	上肢長、上腕長、前腕長、下肢長、大腿長
4	形態測定②	上腕周径、前腕周径、大腿周径、下腿周径
5	可動域測定①	総論、意義、目的、方法
6	可動域測定②	測定、肩甲帯、肩、肘
7	可動域測定③	測定、前腕、手、手指
8	技術復習	知識、実技、実践
9	可動域測定④	測定、股、膝、足、足部
10	可動域測定⑤	測定、頸部、胸腰部
11	感覚検査①	総論、意義、目的、方法
12	感覚検査②	表在感覚、深部感覚、複合感覚
13	協調性検査①	運動失調、測定異常、反復拮抗運動不能
14	協調性検査②	協働収縮不能、運動分解、時間測定障害
15	技術復習②	作業療法評価、知識と技術の確認、まとめ
16	期末試験	復習・確認・総まとめ